

平成29年度第1回東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所 平成29年6月27日(火) 午前10時00分
東温市庁舎 4階 405会議室

議事に出席した委員	東温市長	加藤 章
	教育長	池川 仁志
	教育委員	菅原 正夫
	教育委員	遠富 英子
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	水岡 明美

議事に出席した職員	総務部長	永野 昌二
	総務課長	渡部 祐二
	保育幼稚園課長	丹生谷 衛
	生涯学習課長	渡部 明德
	給食センター所長	菅野 美香
	事務局長	高須賀 広一
	学校教育課長	池田 隆太
	学校教育課長補佐	松本 則一
	学校教育課指導主事	築山 信雄
	学校教育課主査	長曾我部 憲一郎

傍聴人 7名

午前10時00分開会

高須賀事務局長

定刻が参りましたので、只今から平成29年度第1回東温市総合教育会議を開催いたします。

東温市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、総合教育会議は市長が議事の進行を行うこととなっておりますので、よろしく願いいたします。

加藤市長

私が議長を務めさせていただきます。本日は7の方が傍聴を希望されております。傍聴を許可してよろしいでしょうか。(異議なしの声) それでは承認いただきましたので傍聴者の入室を許可しますので、資料の配付と準備をお願いします。(傍

聴者入室)

それでは開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。皆様こんにちは。本日の早朝、高齢者のクロッケー大会でご挨拶して参りましたが、早朝から33チームが集まっておりました。今年は国体の都合で1チームのみ県大会出場という事で、現在、激戦をしておりますが、とにかくお元気な高齢者の方がおられましたので、それにあやかりまして行政の方も教育行政も含めて元気にいきたいと思っております。よろしく願いいたします。

本日は、平成29年度第1回目となります総合教育会議に教育委員の皆様方にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から東温市の教育の充実のためにご尽力いただいている事、厚くお礼を申し上げます。

さて、私は市民一人ひとりの声を大切にするまちづくりの実現のために、各地域に出向きましてタウンミーティングを開催しております。市民の皆様方と直接対話をすることで地域や、世代が抱える課題や意見を把握することで今後の市政に反映したいと考えております。現在までの開催状況ですが、行政区別のタウンミーティングを2か所、そして、7月末までには延べ5カ所を訪問する予定です。また、世代別ミーティングにおいては新成人の対象者との若者ミーティングを開催したところです。また、8月下旬には小中学生の子どもミーティングを開催予定で、「10年後の東温市実現のために」をテーマにして意見発表や意見交換を行うこととしております。

ところで、愛顔つなぐえひめ国体まであと95日。愛顔つなぐえひめ大会まであと123日となりました。本市におきましても関係者が一丸となりまして大会の成功に向けて全力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましてもご支援とご協力をよろしく願いいたします。また、国体を契機としまして子ども達の体力向上をはじめ、市民スポーツ活動の充実をより一層進めていきたいとも考えております。

本日は、教育行政の現実と課題につきまして協議いたしたいと思っております。委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。私からの開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

それでは早速協議事項に入りたいと思っております。協議第1号として、東温市の教育行政の現状と課題につきまして協議を行います。事務局から順次説明をお願いいたします。

池田課長

(校区外就学の実施、学校教育施設空調設備整備事業について資料に基づき説明)

加藤市長

それでは、保育幼稚園課長お願いします。

丹生谷課長

(放課後児童クラブ開設事業、市立幼稚園一時預かり拡充事業について資料に基づき説明)

加藤市長

それでは、生涯学習課長お願いします。

渡部課長

(川内体育センター改修工事、歴史民俗資料館新築工事について資料に基づき説明)

加藤市長

それでは、学校給食センター所長お願いします。

菅野所長

(学校給食を通した食育の推進について資料に基づき説明)

加藤市長

事務局の説明が終わりました。委員の皆さまご意見ご質問等がございましたらお願いします。

池川教育長

事務局から本市の小規模校の校区外就学についての説明がありましたが、補足をさせていただきます。本市に少人数化して心配している小学校が3校ありますが、本当に学校と地域が一体となって素晴らしい学校づくりに取り組んでくれています。学校訪問をしても、小規模校の特徴である積極性に乏しい、発言力があまりないなど全国的に言われていますが、小規模校3校どこの学校を訪問しても本当に生き生きと学ぶ姿を見ることができます。

特に感心することは、地域と一体となって災害活動等体験活動に取り組んでいます。将来生きて働いていく力が本当に育っていると常々思っています。そして、複式学級については、複数の学年が1つの教室で勉強するため、学習環境的には子ども達にとってしんどい面があります。しかし、算数などのつまづきの多い教科等は、学校が教育課程を工夫して全ての教科ではありませんが、複式ではなく単級で実施をする取り組みを進めていただいています。また、複式学級が1学級の場合には、教頭先生に学級担任をしていただいで複式学級を解消する取り組みをしています。本当に大規模校の生徒も含めて、小規模校の生徒も本当に生き生きと頑張っておりますのでその点についてご報告させていただきます。

加藤市長

補足説明もございました。ご意見ご質問等よろしくお願いします。

本田委員

この校区外就学の事業は、児童数に限らず、子ども達にも自分に合った場所で学べるという、個に応じた学習の保障にもつながる大変素晴らしい事業だと感じています。なかなか一度に数は増えないと思いますが、地道な周知を行う必要があると思います。通学バスの運行を行えば急激な希望者が増えるかもしれませんが、そういった方向になると、保護者自身がその地域や学校にも関わるという意識が薄れてしまう。学校や地域にお任せという気持ちになるかもしれないので、親が責任を持って学校へ連れて行く事も必要かと思います。

それから、複式学級そのものが解消できなくても、複式授業の改善は必要だと思います。大規模校の方へ加配教員が多くなりがちですが、小規模校に東温市内で融通が利くようでしたらできるだけ加配の配置をして、せめて主要教科の複式授業の改善も合わせて取り組んでいく必要があると思いました。

菅原委員

教育長が言われるように小規模校3校にそれぞれ温もりがあり、温かい家庭があって、そして地域が積極的に学校の運営、あるいは子どもの教育に参加していただく。それが学校の理想であり、その理想についてはこの3校とも素晴らしい地元の支援を受けて、すくすくと育っています。

ただ、この校区外就学の実施について最初説明があった時に、存続だけを考えていることが本当に子ども達のためになるのか。人生は80年として、小学校に行くのは6年間。これがこれからの人生の基礎になり、教育の基礎になる訳です。この時に最高の教育環境の中で子どもを育てていく、それが親の務めであり、我々の務めであると思います。その点からすると、西谷小学校が以前複式学級でしたが、教頭先生の支援があって現在は複式学級は解消されています。

確かに複式で授業をしたり、それを解消したり、そういった事が繰り返されることは決して良いことではないと思いますので、本田さんが言われたように、是非、西谷小学校については複式授業にならないように県教委にもお願いしていただきたいと思います。複式授業は子どもにとっても時間数が単純に言うと半分です。先生は両学年の教える内容を勉強しなければならない。先生と子どものどちらにとっても普通ではないと思いますので、そういう環境は回避すべきだと思います。

西谷地区あるいは東谷地区で川内保育園に通われている人がいますが、その子どもが小学校に入学するときは小規模校に入ります。その時に保護者は恐らく不安もあると思います。そのことを考えると、歴史の長い小学校は、明治の初めから地域の支援を受けて今まで来ているため、それを無視して統廃合はしないで、校区外就学等の施策を講じつつ統廃合について議論をするべきであると思います。

学校の適正クラスの数を法律では1学年2学級若しくは3学級が適正であるとしていますが、なぜそれが適正なのか、地域の事情があるため、その意味を関係者みんなで考えていく必要があると思います。

確かに地域ごとの理想的な教育環境があり、小規模校3校も教育環境あるいは自然環境は素晴らしいですが、それが本当に子どもにとって良いのか。学校がなくなると、地域の活性化の低下につながりますが、その理由だけで学校を存続させる必要があるのか、それも検討すべきではないかと思います。

加藤市長

はい、どうぞ。

遠富委員

東谷小学校や松山市の小規模小学校に勤務した経験があり、それぞれの学校を思い出します。小規模の学校には地域の教育力や文化、学校が積み重ねて継承してきた教育文化があり、それは、その地域で生まれ育った子どもにとっては大変素晴らしいものであり、人生の基礎となるものです。それは大きな学校で刺激いっぱいの中で育つ子どもに負けないくらい大きなものであると思っています。

東谷小学校に勤務していた時に、市外の方が東谷の地域環境、自然環境、教育力や学校の雰囲気などを見て、そして、大規模校では子どもの教育が不安なので是非とも自分の子どもを東谷小学校で学ばせたいと考えられて転校された方がいます。

その時に、大きな学校では発達上の特徴などで指導を受けるのが心配な子どもさんがいますので、東谷小学校は校区外の方をもっと受け入れられる学校にしていきたいと思っておりました。それが校区外就学の制度で実現したので大変嬉しく思っております。

加藤市長

はい、どうぞ。

水岡委員

小学校や幼稚園の放課後児童クラブなど延長をしていただき、保護者にとっては、ありがたい事業が増えていると思います。幼稚園の延長保育や小学校の児童クラブが3年生までが6年生までに拡充されたことに対して、保護者からありがたいと言う声を聞きます。その声の中で聞かれるのが、児童クラブの受入れ時間について、夏休みは児童クラブが8時からの受け入れのため、30分遅れて仕事に行っている人や、他のお母さんに頼んで児童クラブに連れて行ってもらったり、ファミリーサポートにお金を支払って連れて行ってもらうなど、夏休み中に苦労されているお母さんが多くいます。

なかなか難しいとは思いますが、児童クラブの受入れ時間を8時からではなく、

15分でも早めていただくと、働いているお母さんは安心して預けることができるため、夏休みの受入れ開始の時間を少しでも早くしていただけるとありがたいと思います。

加藤市長

4人の委員のご意見について、事務局から説明がありましたらお願いします。

池田課長

校区外就学については、大きい学校ではなかなか授業が難しい子どもがいますので、東温市の自然豊かな環境の中で学習できることなど、今後積極的に校区外就学、児童の受入れを取り組んでいきたいと考えています。

本田委員

山間地域の児童数減少は、人口の減少とつながってくると思います。私が昔、東谷小学校と上林小学校の児童数減少について思っていたことは、東谷小学校より上林小学校の児童数のほうが早く減っていくのではないかと思っていたのですが、東谷小学校の児童数が早く少なくなりました。考えてみると、行政が西谷・上林地区に住宅地の造成を行って外部からの移住、Uターンが出来る体制をしていただいております。地域に住んでいる人が増えないと地域外から子供だけを通学させても地域はなかなか存続していかないと思います。今後、市の計画は何かありますでしょうか。

加藤市長

今まで土地開発公社の計画で山間部の住宅地造成時に、入居される方の優先的な条件として就学する子どもがいることなどがありましたので、一時的には学校の児童数確保には大きな力となりました。しかし、長い期間で考えると人口の減少の歯止めにはなりにくい部分がございます。地域の方と話が必要ではありますが、現在のところは、住宅団地建設の計画はありません。

永野部長

現在、移住定住で色々な事業に取り組んでいますが、特に子育て世帯に東温市に住んでもらうかを考えると、一番は働く場所の確保になると思います。都会から来ても働く場所がなくて経済基盤がないと生活していけない事もありますので、それらも含めて新たな工業団地の造成など色々取り組んでいるところです。

また、全国的にも多数の市町が移住定住として魅力あるまちづくりを進めている中で、いかに東温市を選んでもらうか。特色ある、魅力あるまちづくりを東温市でも進めていますので、特に東温市では、教育環境が恵まれているという所をメインにして全国に情報発信をしていく事も考えています。

菅原委員

世帯を増やし、子どもの数を確保することは一つの考え方であると思いますが、実際にこれだけ人口減少が続いていくと、人口を増やすのはなかなか難しいかと思っています。

校区外就学について、校区外から小規模校の環境に応じた子どもを受け入れることはとても良いことですが、もともと住んでいる地元の子どもの教育が本当に恵まれているかは、これから考えていく必要があると思います。

加藤市長

小規模校と複式学級については以上でよろしいでしょうか。

遠富委員

小規模校に限りませんが、東温市の教育は特別支援教育も含めてとても素晴らしいと思います。かつて会議などで他市町の学校や地域の情報を聞いた時に、東温市で普通に実施していることが、他市町ではとても遅れていて実施されていないということがありました。ですから教育のまち東温市、どのような子供を手厚く大事に育てる教育のまち東温市という事をPRして、市外から子どもを育てるために転入してもらえれば良いと思います。

本田委員

全く同感です。児童クラブは全小学校で拡充しており、また対象の時間も広げていただいています。しかも料金も大変安い。また、従来からですが、児童生徒にも特別支援教育として本当に素晴らしい子育て支援の取組ができています。大いに市外へアピールをしていただきたいと思います。

加藤市長

はい。事務局お願いします。

丹生谷課長

夏休みの児童クラブの受入れ時間は8時からですが、県下標準の時間設定です。他市町では7時半から受入れをしているところもありますが、ほとんどが8時からとなっています。なお、受入れ時間を早めてほしいという意見については、事務局にも届いております。

現在、児童クラブ支援員の連絡会を毎月定期的を実施しており、連絡会の中で時間延長や時間を早めることに関して、どのような対応ができるか協議をしております。具体的な対応は協議中ですが、時間を早めた時の加算料金や早い時間帯の支援員の確保をどのように行うか。また、開設時間が10時間あり、さらに時間が延長になると支援員の負担なども色々考慮する必要があると思っております。

時間の延長等を実施する場合は、予算措置も必要になりますので、色々な意見を

聞いた上で、来年度の当初予算編成にあわせて検討したいと考えております。

菅原委員

保育園は7時から受入れできますが、児童クラブは8時からの受入れです。児童クラブに預けるお母さんは朝が時間的にしんどいと思いますので、制度が良くなっていくことは良いことなので、受入れ時間を早めることなど検討をよろしく願います。

あと1点。児童クラブを見て回って、狭い場所もあると感じますので保護者からの意見が何かあれば教えてください。

加藤市長

はい。どうぞ。

丹生谷課長

北吉井小学校の放課後児童クラブは、いわがらこども館の2階に1クラス増やしました。また、南吉井小学校と川上小学校の放課後児童クラブについては、新しく建物を建てております。拝志小学校の児童クラブは既存のままで小学校6年生まで拡充しましたが、体育館が使用できるため、保護者から狭いという声は聞いておりません。また、夏休みにはプールの利用もしております。

菅原委員

体育館が利用できることは良いことだと思いますが、児童クラブの教室はスペース的に狭いと感じるので、学校の教室を借りるなどしてはでしょうか。そうすれば支援員が必要にもなるかもしれませんが。

丹生谷課長

今のところ、そこまでの要望はありません。

菅原委員

はい、わかりました。

加藤市長

それでは、今までの件も含めまして他に意見はございませんでしょうか。

遠富委員

空調設備について、市の今後の方向性としてコスト面での懸念が残るため市の負担を軽減するために適切な導入方法を検討していくことになっています。

私の意見ですが、普通教室にエアコン設置するにあたって、一律に各学校の普通教室に何教室かずつ設置する方法ではなく、教室の温度がどれだけあるかによって優先順位を決める方法はどうかと思います。

例えば、上林小学校、東谷小学校、西谷小学校の2階の教室はもちろん夏は暑いですが、少しは耐えられる。それに比べて、北吉井小学校の北校舎1階の1・2年

生の教室は7月、9月の気温はとても凄まじい暑さです。子どもによっては床や廊下に寝そべってひんやり感を求める子どもがいるくらいの凄まじい暑さです。

したがって、7月から9月の授業する時間帯の教室の温度の平均を取って空調設備設置の優先順位を決めていただいて、暑い教室から順番に設置するのはどうかと思います。

本田委員

優先的に順番に空調設備を設置するのであれば、暑い教室からが良いと思います。しかし、学校の授業数も増えていっているような状況であり、キッズウィークの導入も考えられています。そうすると、夏休みが削られていく可能性が非常に強いと思いますので、できるだけ早い時期に全教室のエアコン設置が必要ではないかと思います。

ただ、心配なのは、空調設備の設置費用は一時的であり、設備は設置後に何年間も持ちますが、一斉に使い始めると電気代が毎年毎年必要となって、電気代が高額になることも予想されます。その費用の捻出をどのようにすれば良いのか。東京は財政基盤があるので大丈夫かもしれませんが、香川県の空調設備設置率は97.7%であり、ほとんどの学校で設置され、電気代の捻出をどのようにされているのか。東温市でもそのあたりを考えていく必要があると思います。

加藤市長

学校の空調設備の関係で何かございますでしょうか。

菅原委員

今は小学5・6年生の英語の授業が全くありませんが、3年後の2020年から英語の授業が増えます。また、来年からは道徳の教科化が始まって授業数が増えますので、夏休みを短縮するような議論になっていて、恐らくそうなるだろうと私は思っています。夏休みが短縮され、空調設備を設置するとなると、電気代や維持費もかなり必要になってくると思います。しかし、やはり義務教育ですから、県からの補助金も恐らくなく、財政的に大変かもしれませんが、お願いするしかないので、空調設備の設置をよろしくお願いします。

加藤市長

どうぞ。

水岡委員

私の子どももそうですが、クーラーがあることが当たり前で、生まれてからクーラーのある環境で育っているのです。皮膚が弱いことなどがあります。クーラーがなくても頑張る力を育ててほしいですが、やはり勉強する時には学校でも快適で落ち着いて勉強してほしい、また遊びもしてほしいので、遠富委員さんも言われたよう

に、暑い所から順番にクーラーを付けてほしいと思います。

加藤市長

空調関係で話がありましたが、事務局から何かありましたらお願いします。

池田課長

維持管理費用が問題視されると思いますが、松山市は来年度、再来年度の2カ年で設置を進める状況ですので、先進事例を参考にしながら維持管理費をどう抑えていくか、そして設置の順番についても今後十分検討して、子ども達がより良い学習環境で学習ができるように取り組んでいきたいと考えております。

加藤市長

他にご意見ございませんか。

菅原委員

改修の関係ですが、前回の総合教育会議で、小学校中学校のトイレの洋式化についてぜひ進めてほしいと話をして、現状の洋式化率の資料を作っていただきましたが、前年度末で約半分の49.8%。ほぼ達成できているのではないかと思います。一部の学校では20%台もあり、少ない学校もありますので、重点的にしていただけたらと思います。全体的には非常によく出来ていてありがたいと思います。

加藤市長

今の件についてはどうでしょうか。

池田課長

トイレの洋式化は、学校の要望や状況を踏まえて、更に洋式化を図っていきたいと思います。

菅原委員

川上小学校が少し低いですね。

加藤市長

他に何かございませんか。

菅原委員

歴史民俗資料館の新築工事は良いことで、多額の工事費も必要だと思いますが是非、進めていただきたいと思います。建設後はどなたか常駐されるのでしょうか。

渡部課長

常駐は予定しておりません。主には収蔵を目的にしていますが、見学もできる収蔵庫となります。

菅原委員

中の品物は色々な物があり、紙製品や本もあるのでしょうか。

渡部課長

古文書などがあります。

菅原委員

そういう物は、特に夏は戸を開放したりして管理しないと大変かと思います。保管の面では、夏は全部の戸を締め切っていたら良くないと思います。それから全部がいただいた物なので捨てるわけにはいけないでしょうが、整理をしていかないと、次々に増えてしまいます。

渡部課長

現在の建物は古いですが、空調が必要な収蔵物は、特別な部屋で空調を設置している部屋があり、一年中は空調を運転していませんが、真夏や真冬など、また湿度が高い時に職員が行って空調を運転する期間があります。

菅原委員

空調を設置している部屋があるのですね。

渡部課長

現在の建物にも全体ではないですが、一部に空調が設置されています。新しく作る収蔵庫は湿度や温度など管理する必要がありますので、空調も含めて整備する予定にしています。それから、整理と言う点では、農機具も同じような部類の物も結構あるように思われたと思いますが、今後については、博物館法もありますので一度いただいたら捨てるわけにはいきません。もちろん整理はしますが、同じような物をたくさん集めてもいけないので、今後はそのあたりを考慮して、お断りするものはお断りしていく必要があると思っております。

加藤市長

よろしいですか。はいどうぞ。

本田委員

学校給食センターの地産地消の見える化ということを、今年していただいています。是非とも積極的に進めていただきたいと思います。クールチョイスも合わせてですが、特に地産地消が温暖化防止につながるということが、子ども達にはあまり理解できていないかもしれません。子ども達にそういった事を具体的に見える化をしていただけたらありがたいと思います。

安心安全新鮮な食品を家庭でも積極的に使うように子ども達が変わっていくことが一番だと思います。地産地消することで環境を守り、また地場産業も農業も守っていくこととなります。しいては、そのことが自分たちの生活を守ることにもつながっていくと思いますので、是非、積極的にこの事業を行っていただきたいと思います。

加藤市長

学校給食センターから何かありますでしょうか。

菅野所長

愛媛県産の使用率は平成28年度まで愛媛県下1位になっています。現在もさくら市場と連携を取りながら栽培や作付をしていただいております。

また、今までは食材が東温産というだけで、子ども達にどのような人が作ったのか、どのような状況で栽培されたかなど、具体的な話や実際に写真を見せていなかったため、食べて美味しいだけの給食になっていました。それを一歩進ませて、子ども達が東温市の野菜は、どのように栽培されて、どのような人が作っていることが分かるような仕組みを今年度に作りたいと考えています。そして、栄養教諭もこれに力を入れるようになっていきます。

加藤市長

それでは、議題、東温市の教育行政の現状と課題についての協議はこのあたりでよろしいでしょうか。その他、といたしまして何かございましたらお願いします。

遠富委員

2点あります。1点目は、PTAの名簿の作り方です。個人情報保護法が改正されて、PTA会員の名簿作成時に、学校が作成している児童生徒や保護者の住所や連絡先をそのままPTA会員の名簿として、学校がPTA役員に使用させることは良くないと報道されたことを聞きました。法律と条例があるそうですが、公立学校の場合は、条例に基づいてするため、必ずしもそうではないとは思いますが、そのままPTAの名簿として使うことは法律に触れると聞きました。

2点目は、学校訪問に行くと、中学校の校長先生が、先生方が部活指導を行った後に生徒が帰宅した夜の7時から公務をまた始めるということを普通のように話されて、これは大変だと思っていました。すると、新聞に部活を強くするために時間のことは考えないでやっている。それが実は現在の日本の働き方の基礎を作っているのではないかという新聞報道がありました。ブラック社会の基礎を中学高校時代の部活で作られるなんて極論のようにも思いましたが、無関係ではないような感じを受けました。そのことについて、東温市の学校では、子ども達のために部活がどのように行うのが適正であるか、また、先生方の勤務についても考える必要があると思いました。

加藤市長

PTA名簿の作り方、部活動の在り方に関して2つの意見がありました。事務局からお願いします。

高須賀事務局長

P T A名簿の件については、学校の現状を調べまして、本市にも条例がありますので、そのあたりが適正にできているかどうか確認した上で指導をさせていただきたいと思います。

池川教育長

P T Aの名簿ですが、学校が全保護者の名前や電話番号の名簿を配ることはしておりません。電話連絡網等についても、電話をかけてくる子どもと次に電話する子どもの電話番号だけを教えることにしております。

加藤市長

P T A名簿の件は条例、法令、個人情報保護法に関する法律について事務局で調査しまして、報告させていただきたいと思います。それから部活動の件についてお願いします。

池川教育長

部活動の件は、子どもの健全育成において学校教育の中で非常に大きなウエイトを占めております。しかし、生徒の負担度、また教職員の長期間勤務によって家庭を振り返ることができないなどの問題も生じております。したがって、東温市の中学校の部活動は、週休2日制がスタートした時から原則、土曜日、日曜日のどちらかは休みにしております。しかし、大会前に土日に休むことは非常に難しい状況もありますので、土日に部活動を行った場合は、平日は1日休むように基本的な部活動の取組において約束事として実施をしております。

今後はどのような部活動の在り方が望ましいのか。文部科学省も部活動指導員制度を制度化しましたので、そのあたりの中身も検討しながら先生方の負担が今以上にならないように対応していきたいと思っております。

新聞等でも、また東温市の教職員の勤務状態を調べても先生方は長時間の勤務をしてくれています。これは部活動、生徒指導上の諸問題、教材研究、色々な要因で長時間の勤務になっています。

したがって、校長会等で話すことは、問題によっては徹夜してでも対応しなければいけないこともあるため、優先順位を付けて、それぞれの学校の最重要課題を踏まえて対応していただきたいと思います。お願いしております。

遠富委員

部活動で生徒の気持ちの持ち方ですが、生徒の中にはもっと力を付けて強くなって優勝したいと思って一生懸命練習する生徒もいれば、中にはそこまで練習しなくてもいい、楽しめればいい、色々な経験ができればいい、そういう姿勢の生徒もいると思います。選択の自由というか、自分にあった部活動の在り方があっても良い

のではないかと思います。部活動は教育課程外のはずです。

池川教育長

正式には教育課程外ですが、学校教育の一環としてというように学習指導要領に記載があります。

遠富委員

中には苦しい思いをしている生徒もいるかもしれないと思ひまして。

加藤市長

はい。どうぞ。

菅原委員

スポーツではバスケットでも野球でも、子ども達も大人もそうですが、練習して試合に行き負けて笑う人はいません。やはり強くなりたくて、強くなるためには練習します。その練習する中で色々考え方があられるかもしれませんが、目的には強くなることがあるので、そこを先生方と保護者会はどう扱っていくか。

遠富委員

一生懸命やることも良いですが、一方ではそうではない活動の仕方を選ぶ生徒もいて良いのではないかと思います。

菅原委員

議論をして決めていけばいいと思います。誰でも試合して負けたら悔しい。中学生も負ければ来年は勝つぞと思ってスポーツしているはずで、土日のどちらか休むと、先生になぜ休むのかと言う生徒もいると思います。

遠富委員

もちろんいると思います。

本田委員

中学校で部活動している皆さんは勝利を目指してされていると思います。部活動している生徒には選択の余地がないかもしれませんが、選手養成の部活動的な活動と、それとは別に同好会的な活動をしたいという生徒たちもいるのではないかと思います。両方の気持ちがあると思います。活動の場も指導者も限られた中では難しいと思いますが、外部の指導者等もある程度要請をしながら考えていく必要があると思います。

菅原委員

先生方が部活動の指導を1年中する時代ではないことは分かるのですが、それを突き詰めたら、学校スポーツができなくなってしまう。

本田委員

子ども達の体力低下は特に気になる問題です。中学校だけではなく小学校でもス

スポーツ少年団に入っている子ども達はいいいですが、それ以外の子どもは、体を動かす場が少なくなってきたのではないかと思います。昔は放課後も学校で遊んで帰っていましたが、今は安全面から学校で放課後に自由に遊んで帰るのも難しい。どうすれば子ども達の体力向上につながる場を作ることが出来るのかいつも考えています。

先ほど川内体育館の改修の話がありましたが、スポーツ少年団に入っていない子ども達が安心なスポーツ施設を十分に使えるような時間帯の設定が出来れば多少は改善できるのではないかと思います。難しい問題だと思います。

水岡委員

私は小学校の子どもがいますが、中学校の部活だけではなく、小学校の先生方も放課後水泳や放課後の音楽活動など、6時間目の授業が終わってから先生方が一生懸命、今の時期は放課後水泳を指導していただいています、すごくありがたく思っています。放課後水泳は4年生からで全員ではなく自主的にやっていますが、先生方が溺れないように泳げない子どもを一生懸命指導してくださっています。保護者からは子どもが25m泳げるようになったなど聞きます。水泳練習が終ると陸上練習など授業以外にも頑張ってもらっていますので本当にありがたいです。

池川教育長

教職員の長時間労働、負担が非常に大きいという問題は解消していかなければいけません。やはり子供を思う気持ちがあって、そこに教師の情熱が無ければ学校は成り立たないということは変わらないと思います。ですから、教師はその気持ちをなくしてはならないと思います。しかし、今の現状がそのまま良いという状況でもありませんので、そこは教育委員会として検討していきたいと思っております。

加藤市長

部活に入っている子どもの思い、保護者の思い、それから指導している先生方の労働時間を含めた思いが昔から連綿としてきていますが、ちょうど今、一つの大きな過渡期に来ているように思います。

この問題はすぐに結論が出るものでもございませんので、引き続き注目しながら、また学校の現場の声も聞いていきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

ご参考に申し上げますが、東温市内にもスポーツ少年団、また、文化団体がございまして、特に小学校ではボランティアの方がそれぞれの種目、また、文化面でもボランティアで指導していただいている指導者の方がおられます。その方々にも協力していただきながら、東温市のスポーツ活動文化が発展していけば良いと思っております。その他について、他に何かございますか。

加藤市長

無いようですので、議事を終了したいと思います。委員の皆様には貴重なご意見ありがとうございました。本日も有意義な協議ができたことに感謝いたします。

高須賀事務局長

ありがとうございました。次回の開催は10月頃を予定しております。また改めてご案内しますのでよろしくお願いいたします。それでは以上を持ちまして、平成29年度第1回東温市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

(午前11時35分閉会)